



## 会員からのメッセージ

●入社2年目の2008年からメーカーの駐在員としてマニラの南方約40kmにあるラグナ工業団地で働いています。同年代の日本人は少ないですが、稲門会を通じて年代を問わないつながりをもつことができている。

プライベートでは縁があってフィリピンの女性と結婚し、1歳になる娘がいます。妻のおかげで現地の友人も多くでき、ほかの駐在員とはちょっと違った休日も過ごすことができている。とくにイベント好きのこの国ではパーティーに招待されることが多く、今ではフィリピン流に感化されて友人や家族との思い出を「Picture, Picture!」と写真に撮り「まくる」のが楽しみになりました。

高畑尚幸 (2006年政経)

## マニラ稲門会の人びと

People

●2007年3月から赴任しております。日本で流れるフィリピンに関するニュースといえば日本人が巻き込まれた事件や事故など悪い印象のものが多いですが、ここで私が接するフィリピン人は陽気で明るくおおらかな人間が多く、彼ら、彼女らの仕事への取り組みも比較的熱心です。

しかし、フィリピン人の「Yes Sir!」の返答に気をよくし、任せておくとあとでとんでもないことになっていることもあります。これには気をつけなければいけません。総じていえば人のよい、家族思いというのがフィリピン人への印象です。

岡島千木 (1993年教育)



親睦会

●2011年の初めから商社の駐在員としてフィリピンで働いております。アキノ政権のもと、経済も好調で、日本でもイメージがよくなってきたせいも、最近では仕事や観光で当地を訪れる方々が増えています。新しいショッピングセンターもどんどんできて街も非常に活気があります。

勤務地はマカティ市というビジネス街です。車の渋滞およびそれに伴う騒音、大気汚染もあり、東京の生活に比べると不自由な点もありますが、フィリピン人の明るく陽気な性格にも支えられ、2人の息子を含む家族4人で忙しくも楽しい生活を送っています。フィリピンにも一応季節というものはあるのですが、基本的には1年を通して暑いので、季節の変わりめを実感しづらいのが難点です。

坂倉一正 (1991年政経)

●以前から出張ではたびたびフィリピンを訪れていました。しかし、2007年から駐在することになり実際に住んでみると、文化・風習・国民性の違いに大きく戸惑いました。そんなときに「早慶戦ゴルフコンペ」にお誘いいただき、諸先輩方から公私にわたるアドバイスを受け、本当に助けられました。

同じように世界中で活動する稲門会ネットワークに助けられている卒業生も、多いのではないのでしょうか。私も後輩が困っているときに助言することで、少しでも恩返しできればと思っています。

小川智之 (1997年人科)



ゴルフ早慶戦

## マニラ稲門会について

About

**現**在の会員数は50名弱。記録が残っていないため詳細は不明で

すが、当会の発足は恐らく相当古いものと思われます。日系の大手商社では100年の歴史があるところもあり、戦前はマニラ麻(当時は船舶用ロープに、現在は日本の紙幣にも使用されている)、日本の高度成長期には、南洋材の輸出で栄えました。

懇親会、恒例の年2回のゴルフ早慶戦を中心に活動していますが、最近ではゴルフ早慶戦の負けがこんでいます。在留邦人が1万7000

人以上いることから、潜在会員の発掘にも力を入れております。



マニラ湾の夕日

## フィリピンの魅力

Charm

**1** 980年代にはニノイ・アキノ(ベニグノ・アキノ・ジュニア、現アキノ大統領の父)の暗殺、マルコス大統領の失脚と米国への逃亡、三井物産・若王子支店長の誘拐などが立て続けに起きた。クーデターも頻

発し、「フィリピンは怖い国」というイメージがつくられてしまったため、企業誘致で後れを取り、この国の発展を妨げてきた。しかし、長く住んでいる者の実感としては、近隣諸国と比べても、とくに治安が悪いという印象はない。

フィリピンの最大の魅力は英語で意思疎通が可能、ストが少ない、過去10年間の賃上げ率は約5%と安定、定着率が良い、数千人規模の新規採用も容易など質のよい豊富な労働力であり、さらに約1億の人口は近い将来の消費市場としても有望視されている。

この安価で質のよい労働力を使って輸出企業やビジネス・プロセス・アウトソーシングの進出、さらに英語留学など、もっとフィリピンの活用を考えていただければ幸いである。

三輪隆造 (1960年商学)



マカティの高層ビル群

## 会長メッセージ

2011年5月、理工学部で隣の研究室の1年先輩だった渡辺芳明前会長(1975年理工、1977年工研修)より会長職を引き継ぎ3年目となります。

フィリピン共和国は、アジアの地図を広げるとほぼ真ん中に位置しています。日本を含め、どのアジアの国に出掛けるにも飛行機で4時間くらいで着けます。あまりよいイメージはもたれていないかもしれませんが、住めば都で、とくに英語で日常業務がこなせることや優秀な若者やホスピタリティーあふれる国民性に接すると、みな感激します。

そのフィリピンの首都・マニラで当会は活動し

ています。メンバーはこの国に永住を決めた方から、リタイアしてもこちらでビジネスを行っている方、そして企業戦士としてこの国に派遣された方までさまざまです。とくに海外赴任を始めたばかりの人たちには、さまざまな情報を先達が提供していただき、心強い援軍となっています。

2012年4月度のマニラ稲門会総会には、はるばる日本から福田秋秀校友会代表幹事がお越しください、大学が進めている各種の取り組みなどダイナミックな早稲田の近況についてお話をうかがうことができました。

木村眞一 (1976年理工、78年工研修)